“くらにわ”が地域の賑わいをつなぎ、蔵の街なみにゆとりとふくらみを創出

喜多方-1

喜多方中心市街地地区	喜多方市	喜多方建設事務所 計画期間:H19～H27

地域づくりの方針

ラーメンと蔵のまちとして知られる喜多方の魅力をより一層たかめ、観光客がリピーターとなり、喜多方中心市街地の活性化につながるような地域づくりを目指す。

主な事業内容

民・学・官の協働による「くらはく」（蔵のまちづくり博覧会）を開催
し、まちづくりのビジョンの共有化を図っています。

道路事業等と一体となり、
まちなかを回遊する際の休憩スペースとして「蔵庭（くらにわ）」を整備

事業概要図

位置図

凡例
- 回遊路
- 蔵庭整備箇所

地域づくりのあゆみ

平成16年	・地域イベント「第１回２１世紀シアター」、「第１回蔵してる通りフェステバル」開催（いずれも以降毎年開催）。 ・地元と東京大学による空き蔵を利用した「初代まちづくり寄合所」開設。 ・東北地方の大学によるまちづくりコンペ「まちづくり学会（まなびあい）」開催。
平成17年	・商店街イベント「第１回レトロ横丁」開催。 ・喜多方まちづくり研究会発足。「まちなか全体プラン」提案。
平成18年	・小田付郷町衆会、喜多方商業高校、東京大学による蔵の利活用プロジェクト「まちづくり塾」開催。 ・仲町景観協定締結。ふれあい通りアーケード撤去決定。
平成19年	・小田付のれん作りワークショップ開催。 ・中学生による蔵調査実施。 ・民、学、官の協働による「くらはく（蔵のまちづくり博覧会）」開催。
平成20年	・蔵のまちづくり協議会が喜多方市長へ「喜多方のまちづくりに関する提言書」提出。 ・「地方の元気再生事業」による各種取り組みの実施。
平成21年～22年	・地域が主体となり、「地方の元気再生事業」「建設業と地方の元気回復事業」を実施。
平成23年～25年	・蔵庭整備、サイン整備。

地域づくりを進めてきた中での課題及び解決策

（市担当者）

喜多方市では、これまでもそれぞれの地域で各々の団体が個別にまちづくり活動を展開してきました。これらまとめて一つの方向を示すため、喜多方蔵のまちづくり協議会を組織し、**「くらはく」**を通じて**ビジョンの共有化**を図ることができました。

また、街歩きのポイントとなる道路に花をいっぱい植えて観光客をおもてなしする、という**「おもてなしの花小径」構想**は、平成１８年７月に市主催で実施した「おもてなし向上セミナー」講師の権代美重子先生の講演内容がヒントとなりました。「くらはく」で、なにか市民参加型の取り組みができないか議論していたときに、２つの蔵通りを結ぶ「おもてなしの花小径」という発想が浮かび、観光協会の取り組みとすることにいたしました。

しかしながら、予算はない、人手もない、時間もない、花もない、という中で、極めてあわただしい取り組みとなりました。まず最初に、関係町内の区長さんに構想を話して合意をもらい、その後通りに面する住民全員に当たって同意を取り付けました。

うれしかったのは、この歴史的な通りにもう一度光を当てたいという官の思いに住民の方々が答えてくれたことでした。特に一部の住民は自ら動いて自分の家の花を持ち出したり、家の中に立ち寄らせて、自慢の品を公開し、お茶の接待などを含めご近所ぐるみで訪れる方々をおもてなししてくれたことです。それでも絶対的に花の数が足りなかったため、民間補助金を活用して豆菊の花を１００鉢買いました。さらには、小学校や幼稚園を回ってプランターを借り、「くらはく」開始前日にようやく並び揃えることができました。

「くらにわ」の植栽やJR喜多方駅での「お迎えモニュメント」は、地元の造園業や花屋さんの協力をいただき、プロによる空間が演出できました。特に花屋さんのアレンジは店舗でも好評を得たとご意見をいただきました。

蔵めぐり観光客へのおもてなし用に配置した生花の生けこみは、観光協会で行いましたが、開催期間が長いため途中でのメンテナンスに時間、労力を要しました。

「おもてなしの花小径」の事業を通じて、地区住民が自らの地区に目を向けるようになり、今年は住民自らが自主的に範囲を広げて「おもてなしの花小径」事業に取り組み、そばのプランター８００鉢を植えたのを見て、その広がりを実感しました。

地域の現状

喜多方は、扇状地で水はけが良く、山から運ばれた豊かな土壌や地下水により、かつては周辺の農村の農産物などを売る市場として発展しました。江戸時代には醸造業の盛栄により、蔵が建ち並び、明治時代に養蚕業が起こり、さらに蔵が増加しました。その後大火がありましたが、蔵だけが焼け残ったことから、住人の蔵に対する意識が高まり、蔵が多く建てられるようになりました。

現在はラーメンと蔵のまちとして知られるようになりましたが、後継者不足や資金面から困難となっている蔵の保存や観光客が休憩できるスペースの確保などの課題を抱えています。

事業の効果

■蔵庭の整備

道路事業や沿線店舗の外観（ファサード）整備と連携して整備しました。

■「くらはく」の成果

平成１９年度の「くらはく」の開催により、多くの方が訪れ、喜多方の蔵や食べ物、人の良さといった魅力を発信できました。このことにより、さらなる来訪者の増加が期待できます。新たに、ふれあい通りで百円商店街を開催するなど、商店街の活性化を図る取り組みが行われています。

くらはく（まちづくりフォーラム）

■まちづくり協議会とまちづくりに関する提言書

個々に活動していた団体が、喜多方市全体の地域発展を目指すため「喜多方蔵のまちづくり協議会」を組織。「くらはく」の成果を踏まえたまちづくりに関する提言書を喜多方市長へ提出しました。

■「地方の元気再生事業」へ発展

地元住民の地域づくりに対する気運が高まり、内閣府の「地方の元気再生事業」へ応募し採択されました。平成２０年度に事業を活用した様々な取り組みが行われました。

内閣府の地域活性化統合本部より、「優れた取り組み」との最高評価を受けました。（12件/全120件）

■新たな交流連携

「会津北部・置賜南部交流推進懇話会」（米沢市、喜多方市、北塩原村）では、以前から交流連携した取り組みを行っています。

雄国地区の懇談会や、会津まほろば街道の懇談会のメンバーとして、市街地と農村部の連携策について意見交換を行っています。

元気づくりの立役者たち

喜多方ラーメン	嶋新の蔵	小田付通りの蔵並	三津谷の登り窯	新たな資源「漢字」

地域の課題・今後の展望

これまでの様々なまちづくりの取り組みを継続的に実施していく必要があります。また、観光客の多くが喜多方駅、市役所周辺からの出発していますが、出発地より東部の小田付通りに人が流れていかない状況であることから、わかりやすいサインや案内などが必要です。

今後は、路地や水路を活かしたまちづくりの検討や取り組みが有効と考えています。

実施した感想

江花圭司さん

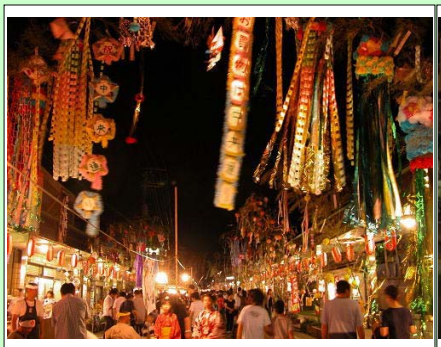
（県担当者）
■活動するに当たって、地域の特定の人に負担をかけてしまったと思います。
（町担当者）
■地域や県の方と一緒に考え、一緒に活動したことにより一体感が生まれたと思います。
（地区住民）
■機会を得たことで各団体が目的をもって取り組んだため協働意識が出てきました。なにをやるにも人手不足の面は否めませんが、活動を通して徐々に増えてきました。地域づくりを続けていくために必要なのは、達成感と資金面の助成だと思います。

整備内容及び利用状況

おたづき蔵通りへ　のれん掲示

ベロタクシーの運行

まちづくり寄り合い所


レトロ横丁

蔵してる通りフェスティバル

まちづくり語り合い

蔵庭整備

街並み整備

道路整備

関係機関

■ 福島県喜多方建設事務所　企画調査課　TEL：0241－24－5707
■ 喜多方市役所　まちづくり推進課　TEL：0241－24－5283
■ 喜多方蔵のまちづくり協議会　TEL：0241－24－4541（NPOまちづくり喜多方）